

こんにちは！ 名寄市長 加藤剛士です



市民の手で彩られた歩道

このコーナーは、Airてっし（エフエムなよろ）との共同企画で、テーマを市長が設定し、本誌ではコラムとして、Airてっしではパーソナリティーとの対談で放送いたします。

平成23年度上半期を振り返って ～観光振興は「まちづくり」そのもの～

今年の夏は、名寄市にとって今までに経験し得なかった、大きな収穫の年となりました。映画「星守る犬」の上映によって、「名寄(なよろ)」の知名度が増すほか、市立天文台「きたすばる」もグランドオープンし、天文学会からも大きな注目を集め、プロからアマまで老若男女多くの来場者で賑わっています。また、道の駅は年間利用者数が40万人を超え、その数は年々拡大しています。各種イベントも昨年を大きく上回る入込人数を記録しており、名寄市の交流人口は確実に増加しています。

しかし、これらのことは、突然起こったわけではありませぬ。映画のきっかけとなった「ひまわり」は、1980年代から農業・観光振興を目的に智恵文地区で栽培が行われていたものです。「星」についても、木原天文台が開設されて30年以上が経過し、大きな成果と優秀な人材を輩出してきました。「もち米」では風連地区、名寄地区それぞれの先人が多くの苦難を乗り越えてもち米団地を形成、ブランド化し、合併後は全国一の生産量を誇るまでになりました。道の駅の成功も、「もち米」のブランドによるところが大きいのではないのでしょうか。全ては、長い歴史が培った一步一步のまちづくりの「成果」であり、これからの観光振興は、「まちづくり」そのものだと私は考えています。

まちづくりとは、そこに住む人の「活性化」だと思います。住んでいる人が楽しく、また自らの地域に愛着と誇りを持っていること。そのことが大きな原動力となり、特徴ある（オンリーワンの）取り組みに、そして地域の活力につながるのだと思います。

先に述べた以外にも、名寄市には誇れる資源がたくさんあります。雄大な自然、アスパラ、薬用植物資源研究センター、カーリングホール、スキー場、ピヤシリシャンツェ、市立大学、市立総合病院、陸上自衛隊名寄駐屯地…。大切な地

域資源をあらゆる手段でしっかりと磨いていく。磨くのは人。だから「人の活性化」が最も重要なのです。地域ブランドの確立は、これまでの地域の歴史と資源を伸ばしていく中で評価される「結果」なのだと思います。

さて、この夏、何より嬉しかった象徴的な出来事は、多くの皆さまに参加していただき、少しずつご自宅や会社の庭先に「ひまわり」を植えていただいたことです。みんなで参加し、来ていただいたお客様に「おもてなし」をする、みんなでこのまちを「明るく元気に」したい。そういった市民の皆さまの思いに、心から感謝申し上げますとともに、更なる交流・定住人口拡大を含めた地域活性化に大いなる可能性を感じております。やはり、名寄市の一番の資源は、市民の皆さまです！

名寄市は、先人の努力により110余年の歴史を重ねました。これまでのご労苦にあらためて感謝します。一方で、本州等の歴史ある都市の「何千年」と比較すると、わずかなのかもしれませんが。そういう意味では、我々のまちづくりはまだ始まったばかりです。まちづくりに逆転満塁ホームランはありません。市民の皆さまとともに、あせらず、しかし恐れず一步一步着実に力をつけていきたいと思っています。

※この企画のAirてっしでの放送時間は、毎月1日と10日の午前と午後の予定。土・日のときは、その翌日の放送となります。



「名寄市からのお知らせ」を放送中

市からのお知らせやイベント情報などを紹介しています。

放送＝毎週月～金曜日 ① 8:10から ② 12:30から ③ 17:10から